



浅間神社だより

第4号

令和8年9月吉日

畑沢浅間神社広報班

【 例大祭・氏子総会御礼 】

7月18日(土)、19日(日)の例大祭におきましては、氏子はもとより多くの皆様方のご支援を頂き誠にありがとうございました。

今年度は宵宮祭に新たに木高ジャグリング部のパフォーマンスが加わるなど、例年にも増しての賑わいとなりました。

また、6月14日(日)には、記録上初めての氏子総会が行われ、時代に即した規約が明文化されました。転居等による氏子脱退の規約と併せて、氏子新規加入への道筋も示されました。

私ども役員一同、神社の諸行事の伝統を継承し、さらなる発展に向け誠心誠意力を尽くしてまいり所存です。しかしながら、神社の未来は偏に皆様方の温かいご支援とご協力にかかっております。今後とも神社活動への深いご理解と、変わらぬご高配を賜りますようお願いよりお願い申し上げます。

(氏子総代 小泉武)



【 お知らせ・ご案内 】

①11月23日(月・祝)に新嘗祭・七五三を行います。9時半～14時半社務所にて受付。初穂料5千円(千歳飴付)

② 令和9年元旦朝0時より、例年通り元旦祭を実施します。社務所は3日まで開きます。

＊御朱印の頒布は、初詣(1/1～1/3)・例大祭・新嘗祭当日のみとなります。

③ 境内及び参道清掃を役員・ボランティア・そして山九株式会社君津支店の有志の皆様により月1回を基本に実施しています。神社美化にご協力いただける方を募集中です。



特集：畑沢浅間神社の歴史を振り返る① ～ 創建から大正時代まで～

【畑沢浅間神社の創建】

正確な創建年代は定かではない（不詳）とされていますが、古代の伝承から鎌倉時代の記録まで、いくつかの重要な由緒や由来が伝えられています。

◆日本武尊（ヤマトタケルノミコト）の東征伝承

社の始まりとして、日本武尊が東国へ向かった際、畑沢の「浜ヶ谷」の山嶺に滞在して富士山を遥拝し、この地に神を祀り祈願したことが起源であるという伝承が残されています。

◆源頼朝の戦勝祈願と寄進（1180～1198年）

治承4年（1180年）、石橋山の戦いに敗れた後に房総へ渡った源頼朝が、北上中にこの社を訪れ、太刀一振と守護神を奉納して武運長久を祈願しました。その後、鎌倉幕府を開いた頼朝は、お礼として「木造観世音菩薩立像」を寄進したと伝えられています（この像の台座裏には建久9年〈1198年〉の墨書が存在します）。

◆「富士山」としての山号と浅間信仰

神社が鎮座する高台（丘陵）は西方に富士山を望む絶好の立地であり、古代～中世の伝承を経て、江戸時代以降は富士講などの富士信仰の拠点（旧村社）として地域内外から深く信仰を集めるようになりました。

正確な創建年は不詳であるものの、「日本武尊の古代伝承」を持ち、「鎌倉時代初期（12世紀末）にはすでに由緒ある霊場として機能していた」ことが分かっています。

【畑沢浅間神社と波岡寺の関係】

明治から大正期の神仏分離（ならびに廃仏毀釈）政策が行われる以前、畑沢浅間神社と波岡寺は神仏習合の形態をとる「一体（別当寺の関係）」の霊場でした。

◆波岡寺が浅間神社の「別当寺」であった

江戸時代まで、浅間神社の山号が「富士山」であり波岡寺の山号（富士山 波岡寺）と共通していることからわかるように、波岡寺が畑沢浅間神社の管理や神事・仏事を一体となって司る「別当寺（べっとうじ）」を務めていました。

◆ご神体と秘仏の関係

源頼朝が寄進したとされる木造観世音菩薩立像が神社の秘仏として祀られるなど、神社の中に仏教的な尊像が深く組み込まれていました。

明治初期の「神仏分離令」およびそれに伴う分離運動によって、全国の神社と寺院は明確に分離

されました。これにより、浅間神社は独立した神社（旧村社）として「木花之佐久夜姫命」等を祀る社となり、波岡寺は真言宗豊山派の寺院として独立し、現在のような隣接する別の宗教施設という形に分かれることになりました。

【境内の石柱などに遠方の人々の名前がある理由】

境内に東京（江戸）など遠方の信仰者・講中の名が刻まれているのには、江戸時代から明治・大正期にかけて広がった「富士信仰（富士講）」と東京湾の海上交通（江戸・日本橋との深い結びつき）が大きく関係しています。

◆富士講（講社）ネットワークと参詣活動

江戸時代から明治・大正期にかけて、江戸（東京）を中心に「富士講」が大流行しました。畑沢浅間神社は富士山（木花之佐久夜姫命）を祀る神社であり、周辺の富士塚や浅間神社と並び、近隣のみならず東京の講社（富士講のグループ）にとっても巡礼・参詣の対象地や交流拠点となっていました。

◆木更津舟・海上交通による江戸（東京）との密接な繋がり

木更津およびその周辺は、古くから「木更津船」をはじめとする海上交通で江戸・日本橋や深川・品川などと直結していました。物資の往来のみならず人の往来・文化交流も盛んであったため、東京の商人や船主、講中の有力者が寄進を行う土壌が整っていました。また、袖ヶ浦市の坂戸神社、君津市の人見神社と並び、畑沢浅間神社も海上での操船の目印として大切にされていたことも寄進の理由のひとつです。

◆別当寺（波岡寺）や秘仏への信仰

神仏分離以前は「波岡寺」が別当を務めており、源頼朝ゆかりの秘仏（観世音菩薩立像）など、強い霊験があるとされる由緒や伝承が存在しました。これらが江戸・東京の信仰者の間でも評判となり、玉垣や石柱、玉垣・礎石などの寄進という形で信仰の証が残されることになりました。

このように、「東京の富士講組織との結びつき」と「東京湾の水運を通じた人・モノ・信仰のネットワーク」が合わさったことが、遠方からの多くの寄進につながっています。（続く）

畑沢浅間神社ホームページ ⇒

